

基礎疾患をお持ちの患者様への新型コロナウイルスワクチン接種について

2021年7月15日 兵庫県立こども病院

以下のメリット、デメリットをよく理解ご理解頂き、
必要があれば主治医と相談の上、接種をご決定ください。
当院では、他院での接種が困難と判断された患者様に限って接種する方針です。

下記の内容に関してご不明な点がございましたら、
以下の時間に感染症内科またはアレルギー科までお問合せください。

(平日 15:00~16:00 代表 078-945-7300)

★ワクチンのメリットは？

- 小児の新型コロナウイルス患者の多くは軽症だが、まれに重症化することがある。
- 高齢者の方や基礎疾患のある方と同居している場合、感染を広げる可能性がある。
- ファイザー社やモデルナ社のワクチンにおける2回接種後の効果は90%以上で、発症を予防し、無症候性の感染を防ぐことができる。
- 小児(12-25歳)を対象とした1,000人規模の治験でもワクチン2回接種の有効性が証明され、日本小児科学会も基礎疾患のある小児に対して接種を勧めている。

★ワクチンを接種できない人はいるか？

- 本ワクチンの成分に対し、アナフィラキシーなど重度のアレルギー既往のある方
(詳細は次ページ参照)
 - 接種当日、明らかに37.5℃以上の発熱をしている人
- 上記以外の方は基礎疾患によらず、原則接種可能です。

★ワクチンの副反応は？

- 生ワクチンと異なり、ワクチン株ウイルスによる感染を起こすことはない。
- 小児では、成人と比較し、ワクチン接種後の発熱や接種部位の疼痛等の副反応出現頻度が比較的高いと報告されているが重篤なものは少ない。
- 接種部位の疼痛は約90%にみられる。
- 接種後、特に2回目の接種後には発熱、全身倦怠感、頭痛等の全身反応が起こることがある(例:37.5℃以上の発熱は20代で約50%、50代で約30%、70代で約10%)。
- 心筋炎については100万回接種あたり40例程度の非常に稀な頻度であり、接種によるメリットが上回ると報告されている。

→接種後に発熱、頭痛や接種部位の痛みがある場合は解熱鎮痛剤(カロナールなど)を使用することは可能です。

★ワクチンのアレルギー症状の頻度とリスクは？

- アナフィラキシー頻度は一般的なワクチンの頻度が1.3/100万接種に対して、ファイザー社11.1回/100万接種、モデルナ社で2.5回/100万接種。
- ファイザー社のワクチンではポリエチレングリコール(PEG)がアナフィラキシーの原因と考えられており、これまで PEG や PEG と交差反応性があるポリソルベートに対する重度のアレルギー反応がなければ、ワクチン接種は可能。

※PEGは化粧品や食品、薬品等に含まれていることがある。

上記以外に注意が必要な方は以下の通り。

- 他の予防接種後2日以内に発熱やアレルギーを疑う症状(全身発疹等)がでたことがある。
- 新型コロナウイルスワクチンの成分に対し過敏症がある可能性がある。
- 原因不明のアナフィラキシーを起こしたことがある。

→これらの方はアナフィラキシーなどの反応にも対応できる体制のもとで接種し、接種後30分以上経過を観察してから帰宅する様にしてください。

★気管支喘息や食物アレルギーがあるとアナフィラキシーになりやすいか？

気管支喘息、アレルギー性鼻炎、アトピー性皮膚炎、食物アレルギーなどがあってもワクチンのアナフィラキシーのリスクは変わらない。ただし、喘息のコントロール不十分な場合は、万が一アナフィラキシーを来した時に重症化のリスクがあり、注意が必要である。
→予防的な抗ヒスタミン剤(クラリチン、アレロックなど)内服は不要ですが、定期内服している方は中止の必要はありません。

以下のページでは日本小児科学会が「新型コロナワクチン～子どもならびに子どもに接する成人への接種に対する考え方～」という提言を行っており、当文書も参考にしています。

http://www.jpeds.or.jp/modules/activity/index.php?content_id=374